

先の東日本大震災では、リスクマネジメントの重要性を否が応にも知らされました。その後もタイ洪水により多くの日系企業の工場が操業停止に追い込まれるなど、滅多に起きない可能性—「万が一」への備えの重要性が身に染みてわかりました。

ロジスティクスの「万が一」にはどんな事象があるのか挙げてみます。大震災や新燃岳などの噴火、台風・洪水などの自然災害はもちろんのこと、鳥インフルエンザ、口蹄疫などの家畜伝染病も発生すると生産者だけでなく物流業界にも大きな被害をもたらします。SARS（重症急性呼吸器症候群）や新型インフルエンザも一時パニック状態を引き起こしましたし、その他、テロや原発事故も挙げられるでしょう。

このように多くの危機事象を想定することは重要とはいえ、対策を考え、ましてや取り組むのは大変なことです。どのような危機事象にどのような事前準備が必要なのか、昨年から少しばかり研究を始めました。BCP（事業継続計画）として本誌に掲載する機会を見付けたいと思っています。

『物流問題研究 56号（2011年夏）』は震災とロジスティクスを特集テーマにしましたが、『物流問題研究 57号（2012年冬）』は震災とも関連の強い「ロジスティクスのリスクマネジメント」というテーマで特集しました。多方面から意見や考え方をお寄せいただきましたので、参考になればと願っています。

なお、本誌の掲載論文ならびにロジスティクス産学連携コンソーシアムのタイムリーな活動情報は、本学のホームページにも掲載いたしますので、是非お立ち寄り下さい。

(<http://www.rku.ac.jp/index.html>)

(小野)